

B
r
i
d
g
e

Contents 〈ブリッジ vol.57 目次〉

- 【連携医の声】伊藤内科医院 伊藤 肇 先生 … 1
 【コラム 向洋の丘】副院長 室井由美子 … 2
 【特集】呼吸器・感染症外来開設 … 2
 D M A T 活動紹介 … 3
 【クローズアップ】第1回がん医療市民公開講座
 新人医師紹介 他 … 4



○発行○ 2012(平成24)年8月31日 / 下関市立市民病院広報年報委員会

連携医の 声

伊藤内科医院
伊藤 肇 先生

昭和52年5月、稗田北町に内科の診療所を開業して35年になります。

その間デイケアセンターを立ち上げたり、新井医院の経営を譲り受けたりして、それらと合わせ医療法人藤寿会という法人の事業になっていますが、私は35年前と変わらず伊藤内科で診療を続けております。したがって、一内科医の立場から、経験したこと、感じたことを述べます。

まず35年前と比べ、高齢化により人口構成が変わり患者さんや疾病内容が変わってきました。最近の医療機器の進歩は目覚しく、新しい治療薬が次から次へと生まれています。当然新しい診断法、治療法がでできます。

具体例を取り上げると、昭和52・53年頃は急性心筋梗塞の患者さんが来院しても冠動脈造影はまだ一般的でなく、ウロキナーゼの全身投与を行っていました。脳梗塞ばかりです。それが今はカテーテルにより、血栓溶解が試みられます。そのため我々開業医の役割は如何に早く診断して、総合病院に送るかということになります。

十数年前ですが、認知症が進み手足の拘束がある入院患者さんが急に呼吸状態が悪くなり、血中酸素飽和度が下がり酸素吸入をしても上がりません。家族の何とかしてほしいという切なる希望で夜間中央病院の当直をしておられた石丸先生に無理なお願いをし、受け取って頂きました。肺梗塞の診断で、治療を行った結果、呼吸状態は回復し、帰って来られました。このように中央病院(今は市民病院)には数限りなくお世話になっております。他の病院も同様です。

過去随分紹介状を書いてきましたが、紹介先は患者さんや家族の希望を第一としています。どの病院も満床状態で受け入れが困難な時、やっと入院可能なベッドが見つかった場合は、こちらの主導でとにかくその病院に行ってくださいといいます。紹介状には病歴や検査データ、処方などを主として書いていましたが、現在はこちらの考えをきちんと伝えたほうが良いと思っています。最近、紹介先の先生方の報告が大変詳しく、参考になっています。

これから病診連携がますます重要になると考えています。どうぞよろしくお願いいたします。





残暑お見舞い申し上げます。

早いもので、4月に「地方独立行政法人下関市立市民病院」としてスタートし、5カ月が過ぎようとしています。

私自身も副院長に就任し、医療分野における看護職の活動領域が大きく変わろうとしていることを実感し、責任と役割の重さを改めて痛感しています。

今、市民病院は大きく変わろうとしています。市民の皆様にも身近に感じてもらえることの一つに、シンボルマーク（右図）とシンボルカラーがあります。当院のシンボルマークは皆様に対する「まごころ」を漢字の「心」で表し、下関の「し」と市民病院の「し」が重なり合っ、母親が幼い子供を背負う姿をシンボライズし、「安心感」を表現しています。シンボルカラーは「ウォームオレンジ」と名づけられ、病院の基本理念「安心」と「優しさ」をイメージしています。このマークを胸に看護師のユニホームも一新し、病院が明るくなったと好評を得ています。



看護部も病院の理念に従い、安心で優しい心の通った看護を目指しています。そのためには、看護部が臨床の要であることを自覚し、専門職として優しい気持ち、思いやる心を表現できる看護技術の習得に努め、個々に合った専門的なスキルを身につけることで、院内・院外で大いに地域に貢献できると考えています。

現在病院を取り巻く環境は厳しいものですが、看護部が中心となり様々な取り組みを行っています。朝の挨拶運動や、玄関前の花壇の手入れなど、来院される皆様に少しでも気持ちよくすごしてもらおうためのものです。これからも地域医療を守る病院として、パワフルに活動を展開していきたいと思ひます。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

「呼吸器・感染症外来」を設置しました。

7月の呼吸器学会・肺癌学会地方会を控えた16日、新聞で山口県における呼吸器関係の専門医が少なく、全国的にも低い数と指摘されました。もっと県内の感染症専門医は少ないですが、当院は小児科と併せ2名います。



この度、呼吸器と感染症の初療を行う窓口として、「呼吸器・感染症外来」を設けました。


診る疾患としては肺炎、その随伴性胸水や膿胸、気胸や肺腫瘍疑い等です。海外渡航に関する感染症も拝診しますが、感染症病棟の玄関に誘導する場合がありますので、その旨ご一報ください。原則紹介制で、毎日午後3時から診察としていますが、急患など随時受け付けています。電話1本で動きますので、お気軽に地域医療連携室にご相談ください。

当院では15年前から感染症専門を兼ねる呼吸器内科・外科がグループで診療し、現在は、呼吸器外科専門医及び感染症専門医1名、呼吸器外科専門医1名と呼吸器科専門医2名を擁します。また、当院は感染関係の学会認定やII種感染症指定施設であり、そのうち日本環境感染学会からの指示で「感染対策ネットワーク下関」と、メーリングリスト（ML）を立ち上げていたところ、4月から地域連携が保険適用となりました。当地の先生方には合同カンファレンス等でお世話になり、感謝します。

最後に感染症専門医などを目指す全国の先生方へ。当院から数多くの専門医を輩出していますので、有志はご相談ください。（呼吸器・感染症センター長 吉田順一）

患者様のご紹介・検査予約・お問い合わせは
地域医療連携室へ ☎ 083-224-3860 Fax 083-224-3861

大規模災害救助機関等 合同実働訓練に参加して

 救命センター看護師 保村宏樹
(日本DMAT隊員)

6月15日、山陽小野田市の楠企業団地で行われた「山口県大規模災害救助機関等合同実働訓練」に、本院のDMATも参加してきました。篠原外科部長を隊長に救急科渡邊医師、4東病棟の飯垣看護師、事務部用度班の森本班長と私の5人チームで参加しました。

現地に行くまで詳細が分からないブラインド方式で訓練が行われました。一同不安を抱えながら訓練当日を迎えたのを覚えています。午前8時56分に山口県東部で震度6強の地震が発生し、待機要請が出たところから訓練がスタート。我々はまずE M I S (広域災害救急医療情報システム)の入力を行いました。本院の被災状況や、受け入れ体制、DMAT隊の派遣が可能かどうか、現在のDMAT隊の活動状況などを次々に入力しました。

資機材を選定し、DMATカーに積載した後、午前9時15分頃に病院を出発。現地に向かう途中、水や食料品などを購入 (DMATは自己完結型の活動なので、水の調達なども訓練の一貫です) しました。



現地には午前10時30分に到着。まずは消防本部とDMAT本部に到着を報告。DMAT本部の指揮下に入り、活動について話し合いました。その後、次々と到着する他病院のDMAT隊と資機材の確認や情報交換を行い、どのような活動をするのか確認し合いました。

我が隊も救助現場での活動に参加しました。瓦礫救助の現場で、高架橋の下敷きになった車に取り残された傷病者の救助に向かいました。車の中からはなかなか救助できず、時間が経過していたので、DMAT隊が中に侵入しトリアージと応急治療を行いました。その他にも、都市型救助を想定したロープレスキューや、水難事故を想定したエアレスキュー、土砂災害を

想定した生き埋め救助などが行われました。午前中はなんとか天気はもっていましたが、午後からは雨の降る中、泥だらけ、水浸しになりながらの訓練でした。待機時間も長く、活動自体はあまりありませんでしたが、実際の災害現場でもこうした状況になるそうです。

今回の訓練で得た教訓は、情報伝達の大切さと、装備の充実だと痛感しました。個人装備の不足で救助に入れなかったり、トランシーバーでの情報伝達がうまくいかなかったりと、もどかしさを感じました。今後も訓練に参加して場数を踏むのも大切だと思っています。

本院は災害拠点病院、DMAT指定医療機関です。あつてはならないことですが、災害が発生した際にはDMATが出動しますし、傷病者が多数搬送されてくると想定されます。病院全体で災害について考えていくことが必要です。

下関市内には、関門医療センターと済生会病院が災害拠点病院の指定を受けDMATを有しています。他病院のDMATや消防、自衛隊、警察などと顔の見える関係作りも大切だと思います。

今後もDMATの活動に、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



CLOSE UP!

第1回 がん医療市民公開講座

「すい臓がんとの出会いを早く知る方法」

平成24年度 第1回がん医療市民公開講座

**すい臓がんとの
出会いを早く知る方法**

九州大学大学院医学研究院
臨床・腫瘍外科学分野教授
田中 雅夫 氏

日時 2012年 10/27(土) 14:00~16:00
会場 海峡メッセ下関
先着申込 200名様 無料

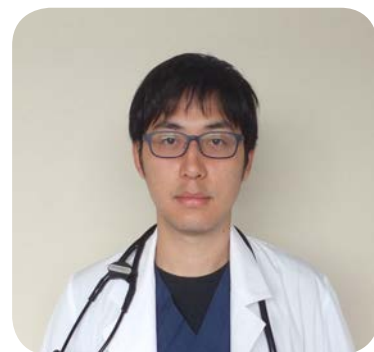
〒750-8520 下関市向洋町1-13-1
下関市立市民病院
事務部経営企画グループ
TEL 083-224-3850
FAX 083-224-3838
E-mail: keiei@shimonosekicity-hosp.jp

- 講師 田中 雅夫 氏
(九州大学大学院医学研究院 臨床・腫瘍外科学会分野教授)
- 日時 平成24年10月27日(土) 14:00～16:00
- 場所 海峡メッセ下関(市内豊前田町三丁目) 10階国際会議場
- 参加費 無料
- 定員 200人(申し込み先着順)
- 後援 山口県、下関市、下関市教育委員会、下関市連合婦人会、
下関市連合自治会
- 申込先・詳細 下関市立市民病院事務部経営企画グループ
電話：083-224-3850
ファクス：083-224-3838
E-mail：keiei@shimonosekicity-hosp.jp

NEW FACE <新人医師紹介>

たけもと じゅんきち
武本 淳吉 (小児外科)

平成24年8月に着任しました。スタッフが少数のため、九州大学からの応援医師の協力を得ながらではありますが、当院で小児外科手術を再開し、下関市の小児外科医療に貢献したいと思っております。よろしくお願いいたします。



《循環器内科よりお知らせ》

8月31日から9月30日まで、第1カテーテル室に機械入れ替えのための工事が入ります。この間、基本的に心臓カテーテル検査・治療は行えません。このため原因のはっきりしない胸痛に関しては、当科で対応させていただきますが、「緊急カテーテル検査が必要と考えられる、明らかな急性冠症候群の急患」に関しては、受け入れを停止させていただきます。

関門医療センター、済生会下関総合病院、下関厚生病院の循環器内科の先生方には、上記日程の間の協力を快諾していただきました。新しい機械が稼動した暁には、尚いっそう努力してまいります。

ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。(循環器内科部長 金子 武生)

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。

さて本号では、がん拠点病院の行事として隣がんの市民公開講座をご案内しております。先生方もどうぞご参加をお願いします。また、災害拠点病院としてのDMAT活動報告は、雨天の中、豪雨災害にも匹敵するものでした。2拠点を持つ地域の病院として邁進しますので、ご指導ご厚情をお願いします。広報年報委員長 吉田 順一